



お金についての対話のすすめ

お金は「カードの中」にある、「スマホの中」にある、ということが当たり前の時代になりました。政府（国）も電子化を奨励し、紙幣や硬貨の発行数も抑制される傾向にあります。現金の扱いが当たり前の時代を経験してきた世代と、電子マネーが当たり前の世代では、金銭感覚に多少の差異が生じる可能性が指摘され、研究も行われています。

現金を扱うことが当たり前の世代の方が「実物操作の経験が豊富」なので、金銭感覚が優れている、と思われがちですが、電子マネーに付随するポイントや特典等も影響して、電子マネー派の方がしっかりした金銭感覚を持ち合わせている、というデータもあるそうです。電子マネーは儉約につながるか浪費につながるか、というよりは、結局、使い手の意識の問題、ということになるのでしょう。

中学生は、労働とそれに伴う対価（給与）を得ることについて児童福祉の観点から法律で禁止されています。したがって、生徒たちが手にしているお金や購入した物品の「元手」（もとで）は、家族の収入です。定額の小遣い制だったり、必要な時に必要な額を持たせたり、与える小遣いは保護者の方針によって定められていることと思います。いずれにしても生徒が自分で自由に使えるお金は限られているはずで、こういう時期に、適切にお金を使う、という学びを体験することはとても意義がある、と三浦康司氏（日本こどもの生き抜く力育成協会代表理事：「幼児期からのマネー教育を」日本教育1月号：日本教育会）は指摘します。氏は、身に付けたいお金の基本的な概念を次のように示しています。

- ・売買による「ありがとう」の交換 …… お金はよいものという感覚
- ・お金は大切なもの …… 増やすことは大変なことという経験
- ・人生設計に必要なもの …… 失敗しないように使う意識

これらの「生きる力」を身につけるには、利用制限のある年齢の（少額の失敗で済む）ときの使い方が大事だという指摘です。

小遣い制のご家庭は、いつから始めたか、どれぐらいの金額から始め、どのように金額が変化してきたか、ご記憶にあるでしょうか。そして、その金額にはどのような根拠があるのでしょうか。使い方に不安を感じたり、誤った使い方を指摘したりしたことはないでしょうか。中学生は義務教育の後半戦です。高校生になると、更に行動範囲・交友関係も広がり、保護者にとって小遣いの悩みは今以上に大きな問題になるかもしれません。今一度、小遣いの使い道や金額について、お子様と話し合ってみる価値はありそうです。ゲームに費やすお金のトラブルや、貸し借り等のトラブルは後を絶ちません。また、高額な詐欺や窃盗の事件も大きく報じられている昨今、家族が働いて得る収入がどれだけ貴重なかを理解できる年齢に達した中学生にこそ、お金についての対話は必要だと思います。この子たちもいずれは自分の収入を得て、「主体的なお金の使い手」になるのですから。

末尾にあたり、新しい年を迎え、寒いながらも活気ある3学期の学校生活がスタートしています。年度末に向け慌ただしく日々が過ぎようとしています。引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、2025年もよろしくお願ひいたします。（文責・校長）



学校生活より

【 福祉カレンダー完成！ 】

美化福祉委員会が中心となり、「福祉カレンダー」を製作しました。各学級でデザインを決め、時間をかけてちぎり絵により完成した力作です。今年度も市内福祉・医療施設（ぬくもりの里、安寧の郷、伊豆医療センター）へプレゼントしました。毎年、とても喜んでもらっています。



【 進路を切り拓け 3年生 】

受検を控えた3年生に向けて面接練習を行いました。校外から3名の面接官役の先生方にもご協力いただきました。高校入試での面接は多くの生徒にとって非常に緊張するものです。生徒は友達や担任の先生と何回も練習を重ねてきました。今回面接練習を終えた生徒は、「緊張したけれど、志望理由がしっかり言えました」「緊張して、答えられなかった質問がありました」など、それぞれ振り返っていました。指導していただいた内容を、自信に変えて本番の高校入試に臨んでほしいと思います。



【 生命誕生 2年生 】

2年生を対象に、助産師の御宿みほ先生をお迎えして、思春期講座を実施しました。命のはじまりや、大人に近づいている心や体のことについて、実際の現場で体験した話はとても臨場感のあるお話でした。妊娠や出産、性感染症、お互い傷つけない付き合い方など、自身



の未来につながる大切な内容でした。ある生徒は、「性交のリスクを改めて感じることもできたけど、自分がここまで生きられたことも奇跡だということも感じられたのでとても嬉しかったです。また、自分の件で何かあったらすぐに相談できるようにしたい、と思いました。」と感想に記していました。「3億分の1」の命の重みを感じたのではないのでしょうか。

【 できることをする 1年生 】

1年生が、大仁地域包括支援センターの職員を講師として、認知症サポーター養成講座を受講しました。認知症の症状や、認知症の人の気持ちや対応について学んだり、認知症予防の体操などを体験したりしました。「なにか」特別なことをする人ではなく、自分にできることとして、地域で認知症の人を支える人として活躍してほしいと思います。



【 第2回学校評議員会 】

1月22日(水)に、学校評議員会を開催しました。はじめに授業中の生徒の学習の様子を参観していただきました。クロムブックを使って、デジタルドリルに取り組んでいる様子や、デジタル教科書を使った授業、受検を間近に控えた3年生の授業の様子などをご覧いただき、委員の方々からは、「生徒達がとても落ち着いて授業にとりこんでいる」と、嬉しいお言葉をいただきました。学校からは本年度の活動の状況報告や、学校評価の結果について説明を行いました。学校評議員の皆様からいただいた貴重なご意見ご感想を今後の学校運営に生かしていきたいと思ひます。

